

「ココが知りたい」。国際協力に関係する
 いろんなトピックを分かりやすく解説します!

11 月12日、ミャンマーの首都ネーピドーで「第17回日・ASEAN首脳会議」が行われ、安倍晋三内閣総理大臣が出席しました。冒頭に安倍総理は、2013年12月の日・ASEAN特別首脳会議で採択された「日・ASEAN友好協力に関するビジョン・ステートメント」と「共同声明」を着実に実施に移し、さらに協力を深めていきたいと述べました。

同ステートメントの柱は、①平和と安定のためのパートナー、②繁栄のためのパートナー、③より良い暮らしのためのパートナー、④心と心のパートナーの4つ。安倍総理は①について、安保法制整備についての閣議決定、日・米防衛協力のための指針の見直しなど、国際協調主義に基づき「積極的平和主義」の取り組みについて説明。②に関しては、アジアにおける膨大なインフラ需要に適切に対応し質の高い成長を実現するためには、「人間中心の投資」の推進が不可欠であるとしました。また、③はASEANにおけるユニバーサル・ヘルズ・カバレッジ(UHC)達成のための「日・ASEAN健康イニシアチブ」の推進、④は青少年の交流といったキーワードを強調しました。

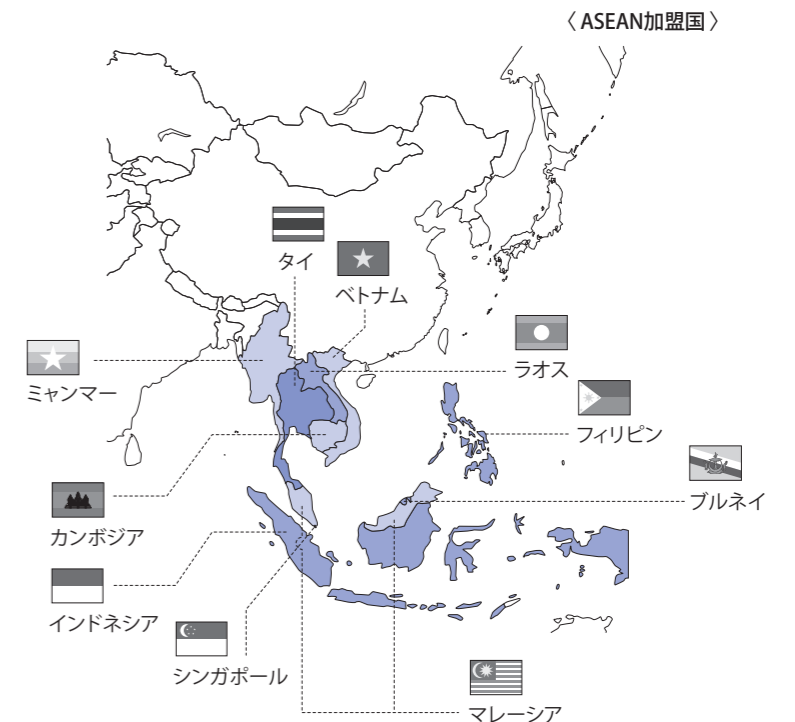
ASEAN側からは、日・ASEAN関係が2013年の特別首脳会議を経て新たな高みへと引き上げられたことを高く評価するとともに、政府開発援助(ODA)、日・ASEAN統合基金(JAIE)、連結性支援プロジェクトなどを通じた日本の協力を深く感謝するとしました。また、今回新たに採択されたのが「テロ及び国境を越える犯罪との闘いにおける協力のための日・ASEAN共同宣言」。安倍総理は、西アフリカを中心に拡大しているエボラ出血熱の流行、ISIL(イラク・レバントのイスラム国)などに関して、日・ASEANで緊密に協力を



ミャンマーに一堂に会した安倍総理とASEAN各国の首脳陣
 (提供：内閣広報室)

「第17回日・ASEAN首脳会議」 地域の発展に向けて アジアの力を一つに

11月、ミャンマーに日本と東南アジア諸国連合(ASEAN)各国の首脳が集結。地域内の課題や解決に向けた連携についての議論が行われました。



アジアの「最後のフロンティア」として知られるミャンマーで各国の首脳が議論



「これからもASEAN諸国との連結性を高めていきたい」と安倍総理
 (提供：内閣広報室)



東京に一堂に会したカリコム諸国の外相ら



「安保理改革実現のため、緊密に連携していきたい」と岸田文雄外務大臣

カリコム加盟国・地域

アンティグア・バーブーダ、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ドミニカ国、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島、スリナム、トリニダード・トバゴ、モンセラット(英領)

11 月14と15日、東京で「第4回日・カリコム外相会合」が開催されました。この会合は、カリブ海を囲む14カ国、1地域から成るカリブ共同体(カリコム) 諸国の外相などを東京に招き、国際社会における日本の協力姿勢や日・カリコム関係の在り方などについて議論するものです。

「第4回日・カリコム外相会合」 日・カリブ交流年への期待

の拡大と深化、③国際社会の諸課題の解決に向けた協力が表明されました。今回の会合でも、この3つを柱に今後の関係強化を行っていくことが、あらためて確認されました。カリコム諸国は、小島しょ開発途上国特有のぜい弱性克服に向けた日本の協力を高く評価しました。一方で、「ミレニアム開発目標(MDGs)」を継ぐ「ポスト2015年開発アジェンダ」の議論や、開発のための資金調達において、所得水準のみならずカリコム諸国の持つぜい弱性にもっと目を向けてほしいという、カリコムの声を日本が代弁することに高い期待が表されました。

国際会議

国際会議

Message from Kyrgyz 日本の強みを生かした農業協力



種まき機を使ってニンジン種の種まきをする



日本人専門家からカボチャの種取りについて説明を受ける

JICAキルギス事務所 大西啓一郎 企画調査員

日本はキルギスに対する支援の大きな柱の一つとして、農業に力を入れています。キルギスは、山岳地域からの豊富な融雪水、雨が少なく乾燥した気候など野菜種子生産に適した自然環境がそろっており、協力分野は、野菜栽培、酪農、農業機械、農家の組織強化と多岐にわたります。

日本の農業開発において、稲や小麦は公的機関により品種改良が行われてきましたが、野菜種子の品種改良は民間企業が主導し、民間の方が得意な分野です。そこでキルギスで実施中の「輸出のための野菜種子生産振興プロジェクト」では、一般社団法人日本種苗協会を通じて、今までの政府開発援助(ODA)にあまり関わりのなかった日本の民間種子業界と連携しています。

目標は、輸出可能な品質の野菜種子の生産を増加させること。その達成に向けて、種子生産や野菜栽培を行う農家を対象に技術研修を行っています。この研修を受けた農家の人々が種子生産のトレーナーとなり、自分の村の農家に技術研修を行う予定です。

近い将来、日本を含むさまざまな国の種子店にキルギス産の野菜種子が並びことを願い、JICAもこのプロジェクトを着実に実施し、キルギスの農業に対する支援を続けていきたいと思っています。

現地からのメッセージは、ODAメールマガジン(www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/mail/)でご覧いただけます。